

インタビュー 家族に迎えて

センターから譲渡されたニャンコ
その後、どうしていますか？

幸せを運んでくれた猫

御夫妻とねずみのおもちゃで遊ぶのが大好きなふくちゃん。白黒柄の愛らしい姿と、おとなしく抱っこをさせてくれたことから、我が家に迎えようと思ったそうです。

名前は、幸福をもたらしてくれるようにという願いから、御主人が『ふく』と名付けられました。

「膝の上に乗ってきてくれたり、おなかを撫でてとアピールしたりするんですよ。」と話す貴船さん御夫妻。

その嬉しそうなお顔や話しぶりは、ふくちゃんが運んでくれた幸福に満ちあふれています。(T.S)



▲ふくちゃん



▲貴船さん御夫妻とふくちゃん

犬猫の飼い主さん募集

～新しい飼い主さんになっていただけませんか？～

センターでは、引き取った犬猫のうち、適性があると判断した犬猫を希望者に譲渡する制度があります。犬や猫の譲渡を希望される方は、是非センターまでお問合せください。ただし、犬や猫の譲渡には、以下の条件がありますので、あらかじめ御了承ください。

譲渡できる方の主な条件 (詳細は、センターへ御確認ください。)

- ・京都府域にお住まいの成人で、譲渡希望者自身が飼い主となること。
- ・ペットの飼養が制限されていない住宅にお住まいであること。
- ・飼い主として責任を持ち、家族の同意を得て、家庭で犬や猫を適正に終生飼養できること。 など

手続の流れ

- ① センターに所定の申込書等を提出 (郵送でも可)
- ② 希望の条件に合う譲渡可能な犬猫が収容された場合、センターから電話で案内
- ③ センターで実際に対象となる犬又は猫と面会
- ④ 犬又は猫の引取りを決めたら、譲渡に当たって必要な書類に記入後、譲渡
※マンション等の集合住宅にお住まいの方には、ペット飼養が可能である旨を記載した契約書等を確認しますので、あらかじめ御了承ください。



毎月
第2土曜日
13時～15時
犬の譲渡会
(見学会)
を開催しています

注意いただきたい点

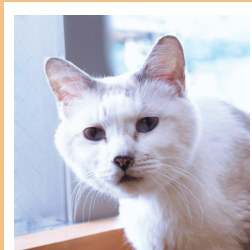
以下のことを御理解ください。
犬や猫の受入れに当たり、即断する必要はありません。犬や猫は15年以上生きることもあります。終生飼っていただくためにも、御家族と相談し、十分に考慮したうえで、御判断ください。
この制度は、お申込みいただいた方全員に紹介できないことも多くあります。また、申込みにより受義務は生じません。犬や猫の受入れを希望される方と保護された犬や猫の“縁のかけ橋”となるものです。



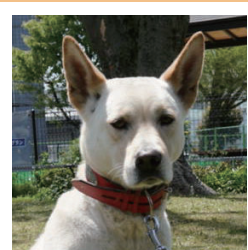
詳しくは、ホームページをごちから御覧ください→

※既に譲渡先が決定している場合があります。

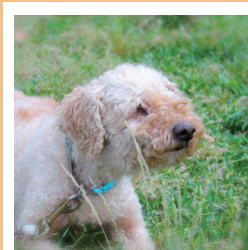
ぼくたちと暮らしませんか？



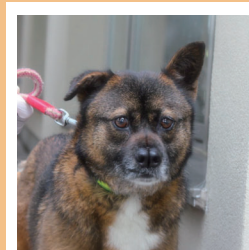
ネック 推定10歳 オス 4.6kg



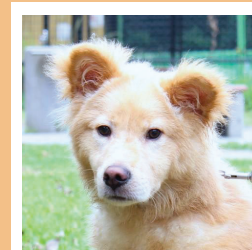
アロー 推定4～6歳 メス 25kg



プーさん 14歳 オス 8.8kg



ポニー 推定4～5歳 メス 12kg



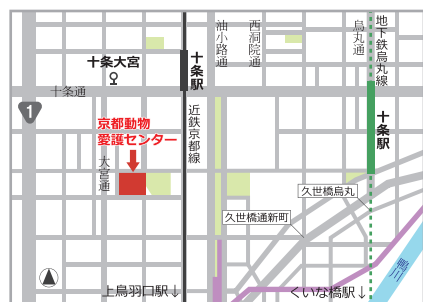
タイム 推定1歳未満 オス 11.3kg

京都動物愛護センターへのアクセス

- 近鉄十条駅から徒歩5分
 - 京都市営地下鉄烏丸線 十条駅から徒歩15分
 - 京都市営バス 十条大宮停留所から徒歩5分
- ※無料駐車場はございません

〒601-8103 京都市南区上鳥羽仏現寺町11番地
TEL: 075-671-0336
FAX: 075-671-0338
開所時間: 午前9時～午後5時
休所日: 木曜日(祝日の場合は翌平日) 年末年始

Facebook → <https://www.facebook.com/anilove.kyoto/>
Twitter → <https://twitter.com/kyotoanilove>



京都動物愛護センターマスコットキャラクター
LINEスタンプ第2弾発売中



本紙は“京都市動物愛護事業推進基金(人と動物が共生できるまちづくり基金)”からも出資しています。動物愛護推進基金に寄附していただいた方のうち、希望者はホームページに公開しており、ふるさと納税の適用も可能です。なお、寄附の方法についても、こちらのホームページで御覧いただけます。

→ <http://kyoto-ani-love.com/>

この機関紙は行政とボランティアが協働で作成しています。

京都動物愛護センター機関紙



令和元年度 秋号

愛ランド通信

—人と動物の共生を目指して—

LINE
スタンプ
第2弾
発売中

特集 シニア犬・シニア猫と暮らす

動物お悩み相談室

意外と知らない? 猫の皮膚病

ペットのためのマナー&ルール

猫の室内飼い

～猫の安全を守るために～

センターニュース

今年は9月22日(日)に開催
～京都動物愛護フェスティバル～

インタビュー 家族に迎えて
幸せを運んでくれた猫



モデルの子: コピィ 15歳 オス

特集 シニア犬・シニア猫と暮らす 「シニアの魅力」

獣医療の進歩や室内飼いの普及、ペットフードの改良などにより、飼い犬・飼い猫の平均寿命は昔に比べるとかなり伸び、犬は13歳、猫は15歳を超えています。

愛犬・愛猫に長生きしてほしいという願いは皆同じですが、犬・猫は人間の数倍の速さで年を取っていきます。一般的に、小型・中型犬で7～8歳くらいから、大型犬で5～6歳くらいから、猫では7歳くらいからシニア期に入ると言われています。

子犬・子猫の頃のかわいさは特別ですが、シニア期には、それとは別の愛らしさがあります。

特に犬は、年齢を重ねるにつれて、その個性が際立ち、優しい顔つきになるところもシニア期の特徴です。ゆっくりと歩く姿や安心してスヤスヤと眠る姿、認知症になって何度もごはんを催促する姿さえ愛おしく感じます。

猫は、見た目はほとんど変わりませんが、「若いころは毎日お出迎えをしてくれたのに、最近は部屋でぐっすり眠って、お出迎えしてくれない。」といったエピソードもよく耳にします。帰宅した飼い主さんに気づき、ちょっと気まずそうな表情をする姿もかわいらしいものです。

顔や身体に白髪が少しずつ増え、ゆったり穏やかに暮らすシニア期を、少しでも楽しく、健康に過ごすために、気を付けてほしいことがあります。



▲もう高齢期の18歳。まだまだ元気!

シニア期に気をつける「医・食・住」

医

加齢とともに発症しやすくなる主な病気とその症状

- 「**歯周病**」 口臭やよだれが出る、食べにくそうにするなど。歯周病菌が体内に入ると、内臓疾患の原因になることもある。若齢期から歯磨きの習慣を付け、定期的な歯石除去など、口腔内の健康に気を付けることで予防できる。
- 「**ガン**」 身体にできるしこりは、普段のスキンシップなどで確認する。犬・猫のガンも人間と同様に、早期発見、早期治療が重要。胸のしこりやハリといった症状が出る乳腺腫瘍は、若齢期の避妊手術で予防が可能。
- 「**白内障**」 目が白く濁り、視力が低下する。症状が進行すると、失明する恐れがある。犬と比べて猫の白内障はまれ。
- 「**心疾患**」 苦しそうな呼吸や咳など。ガンと同様に、早期発見、早期治療が重要。
- 「**腎臓疾患**」 水を飲む量、オシッコの量の増加。
- 「**関節炎**」 歩き方に異常が見られるなど。
- 「**認知症**」 夜鳴き、失禁、飼い主が認識できないなど。



◀ お口の健康にも気を付けて

▶ お顔に白いハートマーク▶

食

食べる喜びは生きる喜び

シニア期に限らず、ドッグフード・キャットフードにどのようなものが含まれているか、知っておきましょう。健康長寿のために、食事を見直し、シニア期に合った良質なフードを選びましょう。食欲も食べる力も衰えて、なかなかご飯を食べてくれなくなった場合は、好物を使った手作りの食事を用意するのも良いアイデアです。ただし、手作りの食事は、必要な栄養を全てバランスよく含むものではないことに注意が必要です。



▲ 14歳と6歳並んでくもくもく

住

シニアにやさしい環境

犬・猫の平均寿命が延びた要因の一つとして、室内飼いの普及があります。特に猫は、室内飼いにより、感染症や交通事故に遭うなどのリスクがなくなります。シニア期に入ると、筋力が衰え、今までは気にならなかった段差が跳べなくなったり、よけてしまったりすることもあります。犬・猫がお気に入りの場所に負担なく行けるよう、段差にスロープを設けるなどの工夫をしましょう。お気に入りの場所に行けないと、ストレスになることもあります。快適に過ごせる環境を作りましょう。



▲ キャットタワーもシニア向けの段差が低いタイプなら安心

「老いのサイン」を見逃さないで！



「老いのサイン」あれこれ

- 被毛のツヤがなくなり、顔まわりに白髪が増える
- 目が白く濁る
- ソファなど高さのある場所に跳び乗れない
- 睡眠時間が長くなる

犬では散歩を喜ばなくなったり、猫では毛づくろいや爪研ぎをあまりしなくなる、といったこともあるようです。「老いのサイン」もさまざまですが、毎日のスキンシップやブラッシングなどのとき、体の異常がないか観察し、さりげなくチェックをしましょう。そのためには、犬・猫が若いころから体のさまざまなところにさわられるようにしておくことと良いでしょう。

その他に、少なくとも年1回の健康診断、感染症の予防、避妊・去勢手術など、若い頃から備えておくことは、健康で幸せなシニア期につながります。犬・猫も人間と同じように、年を重ねるごとに体力が衰え、病気にかかりやすくなります。できるだけ長く、健康で幸せに暮らせるよう、シニア期以降にかかりやすい病気やその対策方法を知っておくことも大切です。

ある日、ふと、「老化のサイン」に気付き、寂しくなるかもしれませんが、現実しっかりと向き合い、不安なときは獣医師に相談しましょう。

いつかくるお別れ～犬・猫が教えてくれること

私たちと愛犬・愛猫の暮らしには、必ず最期までめんどうをみるという責任が伴います。悲しいことですが、多くの場合、愛犬・愛猫は私たちより先に旅立ってしまいます。一緒に暮らすと決めたそのときから、覚悟をしておかねばなりません。「幸せだったかな？」など、悩まれる方が多いですが、一緒に過ごした時間や、愛犬・愛猫がくれた幸せに感謝をすることで、別れの悲しみも少しずつ、受け入れていくことができるようになると思います。

人間の数倍のスピードで年を取る犬・猫と終生暮らしていくことで、飼い主である私たちは「命の大切さ」を改めて学びます。健康で幸せに暮らすために、飼い主には『愛情をもってふれあうこと』がまず求められます。シニア期以降も長く続く暮らしを、より楽しく充実させるために、普段から愛犬・愛猫に目を向けましょう。若い頃よりもさらに愛犬・愛猫のことを愛おしく思うようになるシニア期からは、互いの信頼が、より強くなるのかもしれない。 (Y.N)



▲ 安心できる場所ですやすやす



意外と知らない？猫の皮膚病

1. 猫の皮膚病の主な症状は？

皮膚が赤くなる、湿疹ができる、かゆがる、かさぶたができる、毛が抜ける、などが代表的な症状です。症状があってもなかなか気付かないことがありますので、普段からよく観察しておきましょう。

2. どのような原因が考えられますか？

アレルギー、細菌・カビ、寄生虫など原因は様々です。また、ストレスで自分の体をなめたため、皮膚炎になることもあります。

3. 皮膚病になった時の注意点は？

皮膚の異常を見つけたら、自分で判断せず、動物病院へ相談しましょう。皮膚病の原因を特定して、きちんと治療を行うことが大切です。



▲ 食物アレルギーが疑われる猫▲

皮膚病かな？と思ったら

暖かい時期は、アレルギーの原因となる花粉が多く飛散することや、暑さで体力や免疫力が落ちることなどから、皮膚病のリスクが高まります。アレルギーの場合は、原因の特定に時間がかかります。また、寄生虫による皮膚炎は、室内飼いの猫であっても発症することがあります。顔や体に見慣れないかさぶたができていたり、かきすぎて出血するなど、いつもと違う様子が見られたら、早めに動物病院で診察を受けましょう。(桂)

ペットのためのマナー&ルール

猫の室内飼い

～ 猫の安全を守るために ～

外飼いの猫や野良猫は、室内飼いの猫に比べて、病気やけがのリスクが高く、寿命も短くなる傾向にあります。交通事故に遭ったり、ほかの猫とけんかをして、けがや感染症がもとで、命を落としてしまう場合もあります。

このような危険から飼い猫を守るため、また、飼い猫が他人の敷地で糞や尿をするなどの迷惑をかけないようにするため、猫は室内で飼い、屋外に出さないようにしましょう。また、万が一逃げ出したときに備え、マイクロチップの装着と避妊・去勢手術をしておくことも大切です。(B.H)



飼い猫の安全を守るのは、飼い主の責任です。

センターニュース

今年は9月22日(日)に開催 ～京都動物愛護フェスティバル～

9月20日から26日までの一週間は、動物愛護やペットの正しい飼い方について関心と理解を深めていただく動物愛護週間です。この時期にあわせ、今年も岡崎公園で「京都動物愛護フェスティバル」が開催されます。

昨年は雨上がりで足元の悪い中、たくさんの方が来場され、ボランティアが行ったクイズラリーには約400名の方が参加。ブースではボランティア活動の紹介やペットのための意思表示カード作りを行い、盛況のうちに終了しました。

▶ センターオリジナルの意思表示カード▶



今年も皆さんに楽しんでいただけるような企画を準備中です。会場では第7期ボランティアの応募も受け付けます。ぜひ遊びに来てください！(atk)

◀ 皆さんのお越しをお待ちしています！